

<b>1 学校教育目標</b> 一人一人の個性を尊重しながら、自ら学び、考え、判断、表現していく創造的な知性と豊かな人間性をもつ心身共に健康な子どもを育てる。	<b>2 本年度の重点目標</b> ① 気持ちの良いあいさつと、元気の良い返事ができる子ども ② 自分で気付く、考え、実行する子ども ③ 健康や安全に気を付け、辛抱強く取り組む子ども
--	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
①「心をみがく みふねっ子」の育成						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当 分掌 (部)	担当者
教育活動	●心の教育	人権教育の推進	・人権週間や人権集会を通して、人権意識を高める。 ・毎月「心のアンケート」で「学校が楽しい」と言える児童の割合を90%以上にする。	・学習活動や、集会活動での異学年交流等を通して、思いやりの心や役割意識を高める指導を行う。 ・QUの結果をもとにエンカウンターを取り入れ、よりよい集団づくりにつなげる。 ・年1回以上、職員の人権意識を高める職員研修を実施する。	人権・同和教育	中尾 <small>(低)伊東 (中)中尾 (高)松田</small>
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの問題が起きにくい、早期解決に努める学校の推進	・いじめ等の問題行動の早期発見に努めるため、観察及び情報交換を行う。また、年2回の個人面談週間を設ける。 ・いじめ等の問題行動への早期対応や報告、組織的な在り方について職員の理解を深める。	・個人面談週間を設け、学校生活での不安や心配事についての聞き取りを行い、いじめにつながる事象の早期発見につなげる。 ・いじめ防止に関する情報提供を行うとともに、研修会を実施する。 ・毎週実施する職員連絡会での情報交換を通して未然防止、早期発見、早期解決に努める。	生徒指導	主幹 百武
②「知恵をはぐくむ みふねっ子」の育成						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当 分掌 (部)	担当者
教育活動	●学力向上	・学習習慣・生活習慣の確立・基礎基本の定着と指導方法の改善	・家庭との連携、幼保との連携を図り、よりよい学習習慣と生活習慣の定着を目指す。 ・県学習状況調査(12月)の正答率を県平均と同等にする。	・「みふねっ子カード」を活用し、学習と生活の様子を日々振り返らせ、達成状況を把握し、家庭と連携を図りながら指導していく。 ・TT及び少人数指導により、個に応じた指導を充実させ、基礎基本の定着や思考力の向上を図る。	学力向上	指導教諭 樋渡
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える生徒を90%以上にする。	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	進路指導	主幹 八田
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	学力向上につながるICT活用教育の工夫・推進	・ICT機器の効果的な活用により、授業が理解できたと感じている児童の割合を80%以上にする。 ・スマイル学習の各クラスの実施率を80%以上にする。	・ICT機器を活用した授業を毎日1単位時間以上実施し、効果的だった実践等を共有化することで、学力の向上につなげる。 ・スマイル学習の実施計画を周知したり、校内研究とリンクさせたりすることで、実施率を高める。	情報化推進	牧瀬 吉田将
教育活動	○特別支援教育の充実	要支援児童への支援体制の確立	・校内支援委員会を中心とした校内支援体制を確立し、対象児童の実態の把握や支援を適切に行う。	・月1回の特別支援ミーティングを実施し、計画的な支援や研修等を行う。 ・児童の実態を把握し、「個別の支援計画」に基づいて、SCや専門機関との連携を図りながら、PDCAサイクルに沿って、より実態に応じた支援を行う。 ・職員連絡会で随時、児童の情報共有の時間を設けることで、全職員で共通理解を図る。	特別支援教育	野田 山口直
教育活動	○読書の推進	読書習慣の形成	・朝読書の定着を図るとともに、「リレー家読」の奨励を行う。 ・年間1人100冊以上を目指し、達成率80%以上にする。	・朝読書の時間は、必ず席に着いて読書するように指導する。 ・週に2回は図書室の本を借りるように呼びかける。	図書館・家読	埋ノ江 松永
③「体をきたえる みふねっ子」の育成						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当 分掌 (部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	運動習慣の改善や定着化	・体力・運動能力調査の結果から課題となった柔軟性や持久力、その向上のため運動習慣の改善に努めさせる。 ・体育的行事を推進し、運動に親しませる。 ・全てのクラスにおいて体育学習カードを活用し、運動への関心を高める。(昼休み外遊びの子60%以上)	・昨年度の調査結果と比較し、記録の伸びを確認させることで、運動意欲を高める。 ・縄跳び週間を設け、全クラスで取り組ませる。 ・学習カードを活用した体育の学習を推進する。	体づくり部	前山 戸田将
教育活動	○食育の推進	望ましい食習慣の育成と食に対する感謝の気持ちの育成	・朝ごはんの喫食率90%を目標とする。 ・給食週間の取り組みを通して食に対する感謝の気持ちを持たせる。	・放送による食育指導、児童によるポスター作成の実施、給食試食会等を利用した家庭への啓発を行う。 ・給食週間の活動を通して食に感謝する気持ちを育成する。	給食指導	浦川 八藤 中尾
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当 分掌 (部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	時間を意識した業務遂行	・超過勤務時間60時間以上の職員数を目標とする。 ・毎月の超過勤務時間を意識させ、翌月は前月の時数以下になるように心がけさせる。	・日頃から「何時までに何をどこまでを行うか」、時間を意識した働き方を呼びかける。 ・家族のため自分のために、仕事のONとOFFを上手に使い分け、業務の効率化UPを意識させる。 ・職員会議等で業務改善について呼びかけ、定時退勤日には特に時間を意識させる。	改善委員会	教頭 主幹
教育活動	○地域連携の推進	コミュニティスクールの推進と確立	・公民館を核とした地域との連携に努め、情報交換や情報発信を行う。 ・地域行事における地域と児童との関わりを把握する。	・公民館における児童関連事業の調整を行う。 ・授業や行事での、みふねサポーターの協力を推進する。 ・ホームページを50回以上更新し、学校の情報を地域等に発信する。 ・地域行事への積極的参加を児童に呼びかける。	コミュニケーション	主幹

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目